

月刊

GPP



Vol.46

令和元年8月号

株式会社  
グロースパートナーズ

## 時はしっかりと流れるものだ・

7月末のインドネシア訪問中に東京は猛暑に見舞われたようで、避暑に行っていたようなものだ。朝晩は長袖が離せなかった。

これが発刊される前の8月7日に余剰生コン、通称残コンの“世界大会”が伊豆長岡・長岡生コンクリート社で開催される。今まで関連した企業は勿論のこと、業界主要メディアも参加し、そこにイタリアの大手企業も参加すると聞いているので、まさに“世界大会”である。主催は残コンと共に歩いて10年の、勿論、宮本充也である。

彼のことは以前、こちらでも紹介したことがあるが、いまだに残コン“ねた”を中心に日に3本のブログをアップする強者だ。最近ではアクセス数もかなり多くなっているし、残コンと同じく彼が愛している“透水性コンクリート”の販売も好調だと聞いている。

今回の“世界大会”は、大きな第一歩となるであろう。今まで、陰に隠れていた残コンという悪玉が初めて表舞台に立つ、初めの一歩になるからである。

いままで“残コン対策”とか、横文字にして“残コンソリューション”とかタイトルを付けていたようだが、ここにきて「大地を削らない・汚さない・再生する、水を汚さない、CO2を固定化するコンクリート」と、長い長いタイトルにある日突然変更になった。多分、これもそのうちまた短縮されるような気がするが、それはさて置き、長年愚直に取り組んできた宮本充也だからこそ、この主旨には大いに賛同している。過去否定ではなく、現在否定でもなく、未来の為にいま出来ることをはじめよう、ということだと理解している。

今回の“世界大会”を契機に残コン処理は、JISやISOといった標準化、規格化されることになるであろうし、いまは着実のその方向に進んでいる。あるいはそうならなければ、また元の木阿弥、存在のない物体に戻り、蓋を閉められ、誰かがケツを拭かされることになる。

その製品や処理方法がいかにか素晴らしくても、いかにか地球環境に気を配っていても、結局、表舞台に出てこなければ存在の無いものになってしまうのである、

特にこの業界では。。

今回は業界の主要メディアも来場することとなった。繰り返すが、大きな一歩である。これを機会に残コンの存在が広く認知され、業界全体で取り組むきっかけになってくれることを大いに期待しつつ、当日は私もセルドロンの紹介をさせて頂き、一役を担えればと思っている。

藤井 成厚

発行：株式会社グロースパートナーズ

# セルドロン情報

## ■小松菜による幼植物試験について

先日、セルドロン採用に伴い植物への影響を心配される質問がありました。当時、小松菜を使った試験を実施してますのでご報告いたします。

セルドロンは、土壤汚染対策法26項目の溶出基準値内であるので、安心して土壌に混ぜることが出来ますが、主成分がセルロースのため土壌中に混合すると分解されます。その際、微生物が窒素を使用します。植物の生育に対して必要な窒素があるのが、小松菜の生育状況で確認しました。たくさんのケースを調べましたが、いくつかの事例をあげてみます。赤玉土の無肥料と肥料を入れているもの、N(窒素)を少し多めにしているものの3点と、同じ3種類で赤玉土90%でセルドロン10%にしたものです。



①上段左  
赤玉土100%  
無肥料

②上段中  
赤玉土100%  
N(窒素)=50mg/L P(リン)=70mg/L K(カリウム)=70mg/L

③上段右  
赤玉土100%  
N(窒素)=70mg/L P(リン)=70mg/L K(カリウム)=70mg/L

④下段左  
赤玉土90% セルドロン10%無肥料区

⑤下段中  
赤玉土90% セルドロン10%  
N(窒素)=50mg/L P(リン)=70mg/L K(カリウム)=70mg/L

⑥下段右  
赤玉土90% セルドロン10%  
N(窒素)=70mg/L P(リン)=70mg/L K(カリウム)=70mg/L

上記のように、土に対して質量比10%のセルドロンを入れたところで小松菜の生育に若干の誤差はあったとしても、大きな変化はありませんでした。植物が多く生える場所でも安心して使用可能です。池の浚渫土や田んぼの周りの改良など、ご連絡ください。

## 「残コン技術フォーラム」に参加

残コン技術が集まるとのことで、1年ぶりに有限会社長岡生コンクリートのプラントへ行きセルドロンのデモを実施してきました。残コンの考え方、利用価値の見出し方、需要に合わせた商品開発など様々な勉強になりました。もっと残コンが再利用出来るように、セルドロンも宣伝し続けます。



残コン技術フォーラム



セルドロンを混ぜた残コン

その他ご不明な点がございましたらお気軽にご連絡ください。